

[前画面へ戻る](#)

科目名	薬理学 A
配当年次	2 年次
開講期間	秋学期
単位数	2
担当教員	袁 博(エン パク) 岡崎 真理(オカザキ マリ)
期間・曜日・時限・教室	秋学期 木曜日 2 時限 10 - 102

※

授業の目的・目標

- ①授業の概要：中枢神経系や免疫系に作用する医薬品の薬理(薬理作用、機序、おもな副作用) および臨床適応を取り扱います (PHP251JY)。
- ②授業の目的：中枢神経系や免疫系に作用する薬の効くプロセスについて、生体の機能と薬効がどのように関係しているか、また、副作用についても、薬効との関連を修得することを目的としています。
- ③習得できる力：知識、理解 (2023年以前入学生 DP③◎、2024年以降入学生 DP③◎)
- ④授業の到達目標：中枢神経系や免疫系に作用する医薬品の薬理(薬理作用、機序、おもな副作用) および臨床適応を通して、疾病の病態・薬物治療に関する基本知識を修得し、医薬品の適正使用に関する基本事項を修得することを到達目標としています。
- ⑤実務経験と授業内容との関連：該当せず
- ⑥地域に係る科目について：該当せず
- ⑦令和4年改訂モデル・コアカリキュラムへの対応事項
 - ・本授業の「中項目」：D-2 薬物治療につながる薬理・病態
 - ・本授業で特に重要な「小項目」：D-2-3 麻酔薬、D-2-5 中枢神経系、精神系の疾患と治療薬、D-2-7 皮膚・感覚器系の疾患と治療薬、D-2-10 免疫・炎症・アレルギー系の疾患と治療薬
 - ・本授業の基礎となる「小項目」、科目名：C-6-4 生命活動を担うタンパク質、C-6-6 細胞内情報伝達及び細胞間コミュニケーション「細胞生理学」(1年秋学期必修)、C-7-2 神経系「生理学A」(1年秋学期必修)、D-1-1 薬の作用のメカニズム「基礎薬理学」(2年春学期必修)
 - ・本授業が基礎となる「中項目」、科目名：F-1 薬物治療の実践「薬物治療学A」(3年春学期必修)
 - ・「評価の指針 重点」記載の内容を実現するための学習方略もしくは評価法：到達目標の達成度を、小テストおよび期末試験により評価します。小テストの評価について授業時間内にフィードバックします。

1回の授業につき

準備学習等の指示

- ・ 予習（1時間）：授業スケジュールを参考に当日の授業内容を事前に教科書やWebClass等に表示される資料で確認してください。
- ・ 復習（2時間30分）：授業の内容を教科書・プリント資料を用いて復習してください。授業時間内にWebClass等を用いた演習を実施します。演習問題に繰り返し取り組み、間違えた問題やわからない問題の内容については、解説をよく読み、さらに教科書・資料に戻って確認してください。

講義スケジュール

■ 1回目

【テーマ】 中枢神経系 1

【到達目標】

・ 中枢神経系の構造と機能について説明できる。神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬物（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。

H25[C7-（1）-④-1), E2-（1）-④-1)] (岡崎)

・ 中枢神経系の伝達物質及び受容体について説明できる。神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬物（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。

H25 [C7-（2）-①-1), -2), E2-（1）-④-1)] (岡崎)

【準備学習】 準備学修等の指示を参照

【特記事項】 該当なし

■ 2回目

【テーマ】 中枢神経系2

【到達目標】

・ 全身麻酔薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。

H25[E2-（1）-③-1), -④-1)] (岡崎)

【準備学習】 準備学修等の指示を参照

【特記事項】 該当なし

■ 3回目

【テーマ】 中枢神経系3

【到達目標】

・ 催眠薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。

H25[E2-（1）-③-1), -④-1)] (岡崎)

【準備学習】 準備学修等の指示を参照

【特記事項】 該当なし

■ 4回目

【テーマ】 中枢神経系4

【到達目標】

・ てんかんについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

H25[E2-（1）-③-7), -④-1)] (岡崎)

【準備学習】 準備学修等の指示を参照

【特記事項】 該当なし

■ 5回目

【テーマ】 中枢神経系5

【到達目標】

・ Parkinson(パーキンソン)病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

H25[E2-（1）-③-9), -④-1]] (岡崎)

【準備学習】 準備学修等の指示を参照

【特記事項】 小テスト（血液系）を行い、その評価を授業時間内にフィードバックします。

■ 6回目

【テーマ】 中枢神経系6

【到達目標】

・ 統合失調症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

H25[E2-（1）-③-4), -④-1]] (岡崎)

【準備学習】 準備学修等の指示を参照

【特記事項】 該当なし

■ 7回目

【テーマ】 中枢神経系7

【到達目標】

・ うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

・ 不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

H25[E2-（1）-③-5), -6), -④-1]] (岡崎)

【準備学習】 準備学修等の指示を参照

【特記事項】 小テスト（授業1～6回の範囲）を行い、その評価を授業時間内にフィードバックします。

■ 8回目

【テーマ】 中枢神経系8

【到達目標】

・ 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）について説明できる。これらの臨床適用(WHO三段除痛ラダーを含む)を説明できる。

H25[E2-（1）-③-2), -④-1), -（7）-⑨-1), -2]] (岡崎)

【準備学習】 準備学修等の指示を参照

【特記事項】 該当なし

■ 9回目

【テーマ】 中枢神経系9

【到達目標】

・認知症(Alzheimer(アルツハイマー)型認知症、脳血管性認知症等)、脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞(脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)、片頭痛について、治療薬や中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。

H25 [E2- (1) -③-3),-8),-10),-11), -④-1)](岡崎)

【準備学習】 準備学修等の指示を参照

【特記事項】 該当なし

■ 10回目

【テーマ】 免疫薬理1

【到達目標】

・免疫・炎症・アレルギーに関与する生理活性物質(オータコイド、サイトカイン、増殖因子)の生理活性および作用機構について概説できる。

H25[C7- (2) -③-1),-2)](袁)

【準備学習】 準備学修等の指示を参照

【特記事項】 該当なし

■ 11回目

【テーマ1】 免疫薬理2

【到達目標】

・アレルギー治療薬(抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適応を説明できる。

H25[E2- (2) -②-1), -④-1)](袁)

・アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支ぜん息、アナフィラキシーショックなどのアレルギー疾患に用いられる治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。

H25[E2- (2) -②-3),-4),-5),-6), -④-1)](袁)

【準備学習】 準備学修等の指示を参照

【特記事項】 該当なし

■ 12回目

【テーマ】 免疫薬理3

【到達目標】

・抗炎症薬(ステロイド性および非ステロイド性)および解熱性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適応を説明できる。

H25[E2- (2) -①-1),-2),-3), -④-1)](袁)

【準備学習】 準備学修等の指示を参照

【特記事項】 該当なし

■ 13回目

【テーマ】 免疫薬理4

【到達目標】

・免疫抑制薬、自己免疫疾患治療薬および臓器移植領域の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適応を説明できる。

H25[E2- (2) -②-2),-7),-8),-9), -④-1), - (3) -①-1),-2),-3)] (袁)

【準備学習】 準備学修等の指示を参照

【特記事項】 該当なし

教科書 医療薬学・最新薬理学 第10版(廣川書店)、プリント資料

参考文献

- ・コンパス薬理学 改訂第3版（南江堂）
- ・医療薬学Ⅱ（スタンダード薬学シリーズⅡ-6薬の作用と体の変化および薬理・病態・薬物治療（1）および薬理・病態・薬物治療（2）（東京化学同人）
- ・NEW薬理学改訂7版(南江堂)

毎回の授業は、講義（パワーポイントと配布資料、教科書を用いる授業）を主体（95%）とします。

演習（5%）：毎回の講義内容についてWebClass等で実施します。

【フィードバックの方法】

- ・演習・小テストの結果について、適宜フィードバックを実施します。
- ・演習・小テストはWebClassにて行いますので、タブレット、パソコン、スマートフォンのいずれかを持参してください。

授業の方法

授業方法として下記のアクティブラーニングの手法を実践します。（該当以外を消してください。）

- ・問答法（学生の意見や小テストの結果、アイディア、学習理解状況を聞いて、それを基に授業を進めていく）
- ・学生の回答などのフィードバックが授業の構成要素に入っている

【フィードバック方法】なお、小テスト・課題等については、

- ・複数回ごとに全体にフィードバックを実施する

学生のオンラインなどを含めた学修をサポートするため、下記のLMSを使用します。

- ・WebClass

【成績評価方法】筆記試験、小テスト

成績評価方法

【割合】試験90%、小テスト10%

【基準】試験、小テストの設問に対する理解度に応じて評価する。

【フィードバック方法】小テストについては、実施後授業内で全体に向けてコメントします。

オフィスアワー 月曜日～金曜日の午後（講義・実習時間、会議時間を除く）

居室 岡崎：21-510、袁：21-507

ホームページ

その他特記事項 H25 [SBOs]の記載のない項目は、本学独自の内容です。

添付ファイル

[前画面へ戻る](#)

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2011